

## I.リスニングの測定・評価

### 1. リスニングテストにおける考慮事項

#### 1.1 リスニングの特徴と構成概念

■ 第二言語リスニングのプロセスでは、音声をインプットとして取り込み、言語能力や言語以外のトピックの知識などを用いて意味を構築する。音声情報に含まれる語彙・文法に注目する「ボトムアップ処理」と背景知識等を利用して予測・推測するプロセスを「トップダウン処理」と呼び、両方がリスニング中に用いられる。

#### ■ 3段階のリスニングプロセス

① 解読段階：意味理解に重要なインプットに注意を向け、音・語彙を認知し、語彙知識を活性化する。  
→文法知識を用いて統語的処理を行う。

② 理解段階：言語を現実世界の物や概念と結びつける。背景知識を活性化させ、推測、理解の表象を更新していく。

③ 解釈段階：語用論的な観点から話し手の意味を、トピック、聞く目的などと関連づけて解釈する。

#### ■ 話しことばの特徴(書き言葉と異なる点)

① アイデア・ユニットが書きことばよりも短い句や節で表され、単純構造を持つ。

② アイデア・ユニット同士は、従属接続詞よりは等位接続詞(**and, or, but**)でつながれる。

③ 計画があまりなされないため、沈黙、口ごもり(**hesitation**)や文法・語彙の修正が入る。

④ スラング・口語表現のような非標的表現が含まれる。(書き言葉はより正式)

⑤ **I think, I mean** など個人的表現を使い、内容の点で正確さに欠ける傾向がある。

#### ■ リスニングテスト作成時のデフォルト的構成概念

① 現実的で長めの話し言葉のサンプルを、自動的に現実世界に近い状況で処理する能力

② テキストに明示的に含まれている言語的情報を理解する能力

③ 文章の内容に明確に含意される推論を行う能力

→これを基にテストの状況に合わせて足りない要素を付加して構成概念を修正することができる。

■ リスニング技能のサブスキル(p.175表1参照)、または「タスクレベル」で行う構成概念から、構成概念の定義の修正点を考えることができる。

### 1.2 リスニングの測定方法

#### 1.2.1 リスニング・テキスト

■ テキストは、言語的特徴、明示性、構成、内容などの要因が難易度に影響する(表2参照)。

■ 視覚情報を提示する理由として、理解を助ける、より現実世界に近いリスニングとなる、などがあげられるが、実際は理解力が上がる場合と下がる場合があり、構成概念に含まれない能力を測る可能性も出てくる。

■ マルチメディアの使用もできるが、背景知識を活性化しコストがかからない静止画を提示する方法が現実的である。

## 1.2.2 リスニングのタスク

### A. タスクタイプ(表 3,4 p.178 参照)

- 多肢選択式：2-4 個の選択肢、聞いた情報を基に図や表に変更を加える形式がある。
- 自由記述式：1 語から複数の文を書く、要約を書く、絵・図の作成の形式など。
- タスクタイプの難易度に関わる要因について、最も重要な要因は、「必要な情報がどこにあるか」、「テキスト・タスクの語彙の重なり度合」である(Buck, 2001)。(表 5, p.179 参照)

### B. タスクの実施方法

#### ■ タスクの提示時期

質問の事前提示は、より現実世界に近いという利点もあるが、難易度が変わるかどうかは結果が不一致である。多肢選択問題の場合は、質問文と選択肢の提示がテキストを聞く前か後か、文字か音声か、などの問題がある。

#### ■ テキスト再生回数が 1 回か 2 回か

2 回再生反対派は、現実世界ではテキストを 2 回聞くことはあまりないという理由がある。

2 回再生賛成派の理由として、①タスクが容易になる、②受験者の人数が多い場合周囲の音が原因で聞こえなくなるという心理的ストレスが軽減される、③1 回のリスニングでは概略を聞いていることが多く、詳細理解のためには 2 回聞くことが不自然ではない、④アナウンスなど現実世界でも 2 回聞く場合がある。

#### ■ メモの許可

メモをとることで役立つ点は以下 2 点。①解読段階で内容を要約・評価することができ理解度が高まる。②聞いた後に内容を思い出しやすくなる、現実世界のリスニングに近くなる。しかし、理解度が変わるかどうかについては結果が一致していない。

## 1.3 リスニングテストの開発手順

### 1.3.1 テスト細目の作成

- テスト細目はテストの全体的なデザイン計画書で以下 3 点を含む。(表 6,9.182 参照)

① テストの目的 ②リスニングの構成概念 ③構成概念を実際のテスト問題でどのように具現化するか

- 構成概念と測定方法については、構成概念全体が反映されている代表性のある測定方法を選び、測定後には構成概念の代表制が欠けていないかを確認する必要がある。構成概念の代表性が欠けている状態を「構成概念の代表性の欠如」、構成概念に含まれない要素で変化する得点のばらつきを「構成概念の無関係な分散」とよび、この 2 つの問題が起こらないよう注意することが重要である。

### 1.3.2 テスト項目の作成

- テスト細目に基づき、テキストを用意し、タスクを作成する。
- テキスト録音時には、テキストが構成概念に合った特徴を持つように注意する。例えば自動化処理測定のために早いテキスト、談話測定のために長いテキストを使用する。テキスト録音時には、話し手が即興で自然に発話することが望まれるが、難しいため、この点で構成概念の代表性欠如の問題を起こしている。自然な言語は初級者には難易度が高くなりすぎる傾向があるが、解決策として、

①現実的なテキストを使用しタスクを表面的処理で回答できる簡単なものにする、または②テキストを簡単にし、タスクは現実世界答えられる簡単なものにする、という方法がある。

■ タスク作成の際に気を付けるべき、11点

- ① リスニング以外の要素が関わらないよう多量のリーディング、ライティングを要求しない。
- ② 文章に出てくる順番で設問を作り、質問した箇所はその後の設問で扱わない。
- ③ 背景知識の量によって得点が変わらないようにする。
- ④ テスト項目に対応する部分が、テキスト内で時間的に十分離れるようにする。
- ⑤ テキストのキーワードは項目にもだし、該当部分に集中できるようにする。

ex)テキスト: My second point is .... テスト項目: the second point that the speaker makes

- ⑥ 場面を明示し、テキストとタスクを現実世界に近いオーセンティックなものにする。
- ⑦ テスト項目が完成したら、項目が何を測っているか知るために、正答に必要な情報を特定する。

以下は多肢選択式の場合

- ⑧ 意味理解を判別するために、テキストと選択肢での表現は変える。
- ⑨ 記憶への負担軽減のために選択肢は短く簡潔にする。
- ⑩ 選択肢は必ず4個にする必要はなく、2個などでも項目数を多くすれば問題はない。
- ⑪ テキストを聞かなくても、テスト受験方略を津空くことで正解できてしまうような選択肢を作らない。

### 1.3.3 テストの試行的実施と分析・改良

- テストを予備的に実施し、項目分析を行い妥当性、バイアスを検証し、問題点を修正する。

### 1.3.4 テスト開発の例

- TOEFL iBT のリスニング部門の例。開発では、アカデミックな言語のコーパスを作成し、オーセンティックな言語の特徴を分析し、リスニングのテキスト・タスクタイプを記述した。
- 妥当性を、分析、ESL クラス配置との関係などがから検証し、妥当性を主張した。
- TOEFL iBT 得点が意思決定の際に役立つかについては、TOEFL PBT 得点との換算表を作成、得点基準設定のマニュアルを作成、パフォーマンスの記述子を作成などした。

<補足資料：リスニングタスクの実施方法について>

Limura, H. (2010). The effects of repeating questions on auditory versions of multiple-choice listening tests: a preliminary study. *JLTA Journal*, 13, 41-54.

- 音声で質問を繰り返すことの効果を検証。
- 2つの形式：「(a)質問、テキスト、選択肢」「(b)質問、テキスト、質問、選択肢」、の違いを検証。
- 結果、得点、信頼性、項目難易度などに関して、違いはみられなかった。よって、リスニングテストの形式は、(a)の質問を一回提示の形式が望ましい。

Limura, H. (2007). The listening process — Effects of question types and repetition. *Language Education & Technology*, 44, 75-85.

- テキストを繰り返し再生することと、質問形式の関係性を検証。
- トップダウンプロセスに関する **global questions** とボトムアッププロセスに関する **local questions**、2種類の質問形式で質問をした。2回再生することで、どの熟達度に関しても、両方の質問の正解率が向上した。
- 2回再生することは、上位群にとってより効果的だった。下位群は、3回目のリスニングが最も効果的という研究があるため、できる限り多くリスニングをして理解度を向上させることが望まれる。